



タブレット端末活用を軸としたICT教育推進の意味 ～小郡市「たなばた志」教育の理念と重ねて～

令和3年度から令和8年度迄の新たな「小郡市教育大綱」では、その理念として、『★自律』・『★共想』・『★郷生』の3つのキーワードを大切にすることを位置付けています。これには3つの願いを込めています。

- ★ 夢や願いに向かって遅く課題を解決しながら進んでほしい
- ★ 人とつながり合い心を働かせようとする人に育ててほしい
- ★ 喜びあふれる豊かな郷土をつくり出そうとする人に育ててほしい

この理念の実現に向け、「ICT教育推進」は、次のような子ども達の姿を育むという意味があります。

- ★ **自律**
 - ・ 自らの夢や願い、目標の実現のため、情報ツール・表現ツールとしてのICTを含めた最適な方策を選択・駆使して、主体的に課題解決に向かおうとする。
 - ・ (大人からの指示によるのではなく) 子ども自身が自分の意志で日常的に目的や状況、場面に応じてタブレット端末を文房具として自在に使いこなしている。
- ★ **共想**
 - ・ 友だちとともに、ICTを効果的に使って考えを比較・検討・吟味したり、相手の考えのよさに触れたりしながら、協働して磨き高めようとしている。
 - ・ ICTを活用する際、発信・受信する情報の質・正しさ・意図について、冷静に考え判断し、自分や相手の人権を大切に守ろうとする。
- ★ **郷生**
 - ・ 自分達の学校、校区、地域のよさや魅力についてICTを活用して探求し表現したり、郷土の課題を解決するための協議ツールとして活用したりする。
 - ・ 学んだ成果についてICTを活用して郷土に還元したり、ICT教育で培った資質・能力を発揮して郷土のために貢献したりしようとする。

■ まずは、タイピングなど基本的な操作から積み上げていきたいと思います。本年度は、「ためず」(4・5月)→「使い覚える」(6月～8月)→「使い慣れる」(9月～12月)→「使いこなす」(令和4年～)と、4段階のステップを踏みながら着実に進めていきたいと思います。

- * 下記の学校HPに掲載されている学校便りには児童生徒や保護者・地域への啓蒙を意図した内容が紹介されているモデル例です。各学校HPを参考に積極的な情報発信をお願い致します。
- ・ 目的啓発 (味坂小5月14日号、小郡中5月13日、三国中6月3日号)
- ・ モラル啓発 (立石小5月21日号、立石中5月21日号、小郡中5月20日号)
- ・ 進捗啓発 (小郡小5月28日号、のぞみが丘小5月10日号、宝城中5月7日号)

(文責 秋永)

学校におけるタイピング練習の計画的実施について

各学校で、タイピング練習の時間確保について計画・実施されているところだと思えます。そこで、下記のいくつかの例を参考に計画的に進めてください。

- 朝若しくは帰りの時間に10分～15分程度行う。
- 各教科等の時間に行う。(各教科等での振り返り、総合的な学習の時間)等
- タイピング週間等設定し、集中的に行う。

※ 本来的には、朝登校後、各自が保管庫から取り出し、休み時間を含め、随時子どもが主体的に活用できるような体制をつくることが望ましいものです。早目の移行について検討をお願いします。

週末等におけるタブレット端末持ち帰りの考え方について

本年度のタブレット端末を持ち帰る大きな目標は、「使い慣れる」ことです。

「使い慣れる」とは、

- キーボードでのタイピングに慣れる
- カメラ機能やネット検索に慣れる
- ロイノート等での送受信に慣れる
- タッチペンで文字や絵をかくいたり、画像データに文字を書き込んだりすることに慣れる



等です。

そのためには・・・(例)

- キーボードを使って、オンライン及びオフラインのタイピングアプリで練習。
- タッチペンやキーボードを使って、短作文や(絵)日記、振り返り等を書く。
- カメラ機能を使って、写真を撮り、文字等を付加して送信。
- ネット検索で調べ学習。
等を意図的に仕組むことが有効です。

めざすのは・・・

子ども達が日常的に自主学習等で自ら学ぶための情報・表現ツールとして自分の意志で活用する姿

味坂小学校 江上征一校長(小郡市ICT教育推進委員長)より

各学校におかれましては、週末のタブレット持ち帰りや日常活動の中での活動等、創意工夫されながら、また、試行錯誤されながら取り組んでおられることと思います。取り組みことで「現状」が分かり「改善策」が明確になります。初めての持ち帰り、オンラインで先生や友達と繋がった時の子ども達の嬉しそうな顔を思い出しながら、一つ一つ歩みを進めていくことが大切だと実感しています。